

Weekly コラム

令和3年12月7日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

インフレ

物価が上がることを意味する「インフレ」という言葉を最近ニュースや新聞などのメディアで目にする機会が多くあると思います。「インフレーション」と聞くと「モノの値段が上がる」というネガティブに捉える人が多いかもしれませんが、悪い面だけではありません。インフレによって私たちの生活はどのように変化するのでしょうか。

日本でインフレが起ると、「円というお金の価値が下がる」ことから、円安になる可能性があります。円安になると、輸出業が好調になったり、外国からの観光客が増えたりという点はメリットです。一方、輸入品が高くなったり、海外旅行の費用が高くなったり、現地での買い物が高つくいたりすることがデメリットとして挙げられます。物価は「金利」とも深い関係があります。需要が供給を上回ることでモノの値段が上がり、企業の収益も高まるでしょう。そうすると賃金も上がり消費が活性化していきます。このような好景気の中では金利は上昇する傾向にあります。

物価が上がり続けるインフレ局面では一般的金利を引き上げ、逆にデフレのときには需要を高めるために金利を引き下げる金融政策がとられます。金利が上がると、借入れをするときの金利は上がりますが、預け入れをするときの金利も上がるので、インフレで恩恵を受ける人もいれば、そうでない人もいます。さて、インフレになった場合を想定して、私たちはどのような対策をしておけば良いのでしょうか。

投資商品にはさまざまな種類がありますが、その中には一般的に「インフレに強い」とされているものと「インフレに弱い」とされているものがあります。

○インフレに強い資産・・・株式・投資信託・不動産・金など

○インフレに弱い資産・・・現金・預貯金・保険・債券など

インフレに強い資産と弱い資産の大きな違いは「将来受け取れる金額が約束されているか」です。インフレでは、お金の価値が下がるので同じ「10年後に100万円もらえる」という契約でも、物価が急激に上がってしまったあとでは相対的に価値が下がってしまいます。株式投資をしている場合は、インフレが発生して経済活動が活発になり株価が上がれば、保有している株式の資産価値も上昇します。不動産や金は「現物資産」といい、保有しているモノそのものの価値がある為、お金の価値が下がっても影響を受けにくいとされています。

インフレとデフレも、いつ始まって、いつまで続くかは分かりません。たしかにデフレも低い金利でお金が借りられるなどのメリットもあります。しかし、収入が増えないままでは将来を見越した投資はなかなかできず、誰もがお金を使わずに景気も好転しないでしょう。

インフレや物価上昇のタイミングが来ても困らないように、資産を守る対策はたてておきたいものですね。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。